



学校だより

一人一人が主人公

令和7年1月20日
豊岡市立但東中学校
1月号

【学校教育目標：ふるさとの未来を創る 自分をつくる 但東の子】

3学期始業式のあいさつにて

保護者の皆様、そして地域の皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は、本校教育活動の推進にあたり、ご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。但東中学校の令和6年度3学期が始まるとともに、新たに令和7年がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて2学期の終業式では「満年齢」と「数え年」、そして「学年」という同じ1年でも異なる数の数え方が存在することとその意味について触れながら、「共に過ごす時間の大切さ」について話をしました。そして3学期の始業式では新年を迎えるにあたり、「年号（暦）」と「年度」という異なる基準が、なぜ同時に存在するのかという話から、「変化する新たな社会への心構え」について話をしました。

以下、抜粋して紹介します。

『…。「年号」つまり暦の数字は確かに6年から7年になりましたが、「年度」はまだ6年のままです。なぜ「年号」と「年度」という異なる基準が存在するのでしょうか。また春分や秋分、夏至や冬至といった、科学的・天文学的に区切りとなる特別な日は全く無関係な日を、なぜ「年号」や「年度」の基準日にしているのでしょうか。みなさんは不思議に思ったことはありませんか。』

そもそも暦がつくられたのは、人の農耕文明の始まりがきっかけだと言われています。農業にとって種まきの時期を知ることは大変重要でした。ですから春分が過ぎ種まきに適した温かい季節の始まりを新たな年の始まりとしたのです。つまり最初は春が新しい年の始まりだったのです。ところがその後、人が戦争を行うようになると、戦争しやすい春の開戦に向けて準備期間が必要となったため、人は新しい年の始まりの基準を冬に変えたのです。それが今の暦の1月1日の始まりです。平和な時代となった現代においては、それがそのまま新しい年の始まりを祝う日となったのは何とも皮肉な話です。

〈生徒集会の様子〉



その後、さらに文明が発達して社会の経済活動が盛んになると、暦とは別に人は税金の時期によって新たな基準日を設けました。それが年度です。最初年度はお米の収穫時期の10月が基準日でしたが、その後お米を売って税をお金で払うようになってくると、その準備期間のために基準日を12月に、さらに予算を立てる準備期間が必要となったため4月へと変更していきました。これが今の年度の始まりです。つまり暦や年度は絶対的なものではなく、人がその時代の変化に合わせて作り、人が都合よく変更してきたということです。

さて、話が長くなってしまいました。

私が皆さんに伝えたいのは、暦や社会の仕組みに限らず、人がつくったものには例外なく理由があり、そして人の都合でいくらでも変えることができるという事です。誰かがつくったものを利用するのは、とても楽で便利ですが、それらはいつでも変更が可能だということをお忘れはいけません。

これからの時代は「変化の時代」とよく言われます。みなさんには誰かがつくったものにただ素直に従うだけでなく、必要に応じて自ら変化を生み出す人になってほしいと思います。安易に答えを求めるのではなく、当たり前なことにも疑問の目を向け、時間はかかっても自分の力で考え判断することを大切にしてください。学校とはそのような力を育てるための場所なのです。どうかみなさん、心に留めておいてください。』

〈球技大会の様子〉



1月の主な行事

- 1月20日（月）教育相談
- 21日（火）HSP（小6 中学校体験学習） 新入生入学説明会
- 22日（水）生徒会一斉専門委員会 職員会議 PTA 選考委員会
- 23日（木）教育相談
- 24日（金）教育相談 生徒会学級討議
- 29日（水）教職員校内研修会（数学 木村裕美子 教諭）
- 30日（木）スクールカウンセラーによる「こころの授業」
- 31日（金）生徒総会



※2月 私立高校入学試験（10日）、公立高校推薦・特色選抜（17日）等